

もものポット大苗を利用した定植1年目から収穫できる シンプル栽培技術

ももは、果樹の中では経済樹齢が短く15~20年程度で植え替えが必要となります。また、連作障害による樹勢低下が問題になります。そこで新潟県農業総合研究所園芸研究センターでは、ポット大苗を利用して100本/10aの密植にし、比較的簡単な栽培管理を行うことで早期に収量が得られる栽培方法を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 育苗は、芽接ぎ苗または購入苗を不織布ポットに植え付けて管理します。2週間ごとの誘引と副梢の摘心を実施することにより秋期に2m程度の大苗が得られます。
2. 定植は春植えを基本とし、列間5m、樹間2mで植栽し、主幹形で管理します。1結果枝当たり1~2個着果させ、定植1年目から収穫します(図1)。2年目以降は1本おきに永久樹を斜立主幹形に移行しながら管理します(図2)。
3. 剪定は4つの簡単な管理で実施します(①先端は曲がる所で切り返し②幹の太さの1/2より太い枝は基部の葉芽を2芽残して切る③二又に分岐している枝は1本にする④隣と触れあう枝は切る)(図3)。
4. 定植1年目で0.3t/10a、2年目で1t/10a程度の収量が得られます(図4)。



3~4月に定植 → 8月初収穫
図1 定植1年目: 大苗の定植から収穫と落葉後のシンプル剪定



図2 定植2年目
(1本おきに永久樹を斜立主幹形に移行)

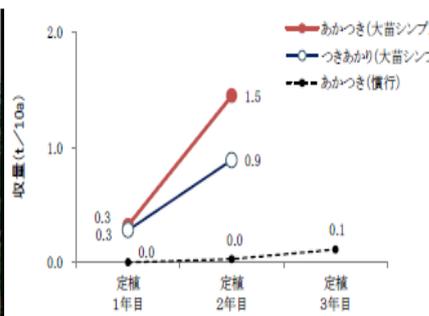
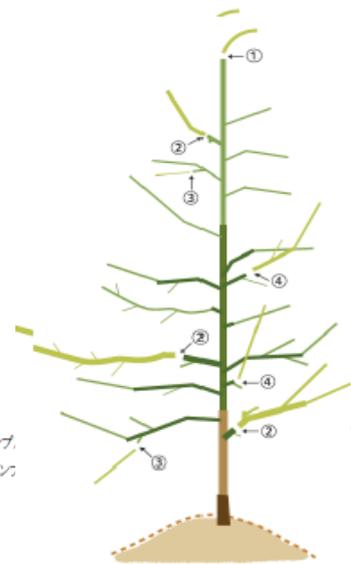


図4 年次別収量の推移
(大苗シンプルは100本/10a、慣行は40本/10a)



4ステップのシンプルせん定
①先端は曲がる所で切り返し。
②幹の太さの1/2より太い枝は、基部の葉芽を2芽残して切る。
③二又に分岐している枝は1本にする。
④隣と触れあう枝は切る。

図3 シンプル剪定法

☆ 活用面での留意点

1. 詳細については、新潟県農業総合研究所園芸研究センター育種栽培科(0254-27-5555)までお問い合わせ下さい。

(農研機構果樹茶業部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)